

# The TENDAI journal

発行所：天台宗出版室  
発行人：出版室長 小林 祖承  
〒520-0113大津市坂本4-6-2  
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)  
Eメール：T-Press@tendai.or.jp

令和3(2021)年11月1日月曜日  
(毎月1日発行) 1部50円(消費税込・送料別)

天台ジャーナル



## 特別展「最澄と天台宗のすべて」 東京国立博物館ではじまる 秘仏など名宝揃う貴重な期間

宗祖伝教大師一千二百年大遠忌を記念した特別展「最澄と天台宗のすべて」が東京国立博物館平成館で10月12日から始まった。秘仏をはじめとしたゆかりの名宝が展示されており、開宗から江戸時代までの天台宗の歴史を知る貴重な機会となる。

特別展は、令和3年から4年にかけて東京(11月21日まで)、九州(令和4年2月8日～3月21日)、京都(令和4年4月12日～5月22日)にある国立博物館で開催する。延暦寺や全国の天台宗寺院等が所蔵する秘仏や、国宝、重要文化財の宝物など約230点が3館で展示される。

各会場ともに地域性にも重点を置いた特色ある展示で観覧者を迎える。東京会場では、比叡山延暦寺における日本天台宗の開宗から江戸時代までを6章立てて構成。最後の展示室では、中央に根本中堂内部を一部再現し、時計回りにめぐると全国の天台宗の特色ある仏像を観ることが出来る。

展示を担当した皿井舞平常展調整室室長の話では、伝教大師自刻の伝承をもつなどのゆかりの尊像を選んだという。

中でも、三岐教区願興寺(蟹葉師)の薬師如来坐像は、伝教大師が東国巡化の際に自刻された伝承

が遺されている。

また京都・法界寺の薬師如来立像は、自刻された根本中堂御本尊の薬師如来像に最も近い姿をしていると言われる秘仏で、今回特別に出展された。その他、日本最大の肖像彫刻である深大寺の慈悲大師像は205年ぶりの出展であり、真正極楽寺の現存最古の阿弥陀如来立像は寺外初公開される。また、現存する伝教大師自筆の手紙、国宝の尺牘、インド、中国、日本の天台ゆかりの人物たちを描いた国宝の平安絵画十幅の展示もある。

音声ガイドのナビゲーターは歌舞伎俳優の市川猿之助さんが務めている。

開会前日の10月11日には関係者向けの内覧会があり、天台宗の阿部昌宏宗務総長、甘井亮淳法務部長、延暦寺の水尾寂芳執行、小森文道副執行、今出川行戒副執行らが出席。また東京教区の林観照宗務所長はじめ教区内住職らが参加し、期間の無事を祈る法楽が営まれた。

なお、混雑緩和のため「事前予約制(日時指定券)」を導入しているが予約不要の「当日券」もある。詳細は東京国立博物館ホームページにある「展覧会公式サイトチケットページ」へ。

### 極微

現代は、科学技術の発展により様々な精巧な製品が生まれている。特にIT製品は、日進月歩の進化を遂げ、新製品が次々に世にもたらされている。それら

の製品には、スマートフォンやデジタルカメラのように金や銀を初めとする希少な金属が使われていることが多い▼使用される鉱物は、世界の様々な場所で発見されている。いわゆる「レアメタル」と呼ばれる鉱物だ。しかし、採掘コストの理由から中国などいくつかの国が産出国となっているのが現状だ▼日本は、残念ながらこうした産出国から輸入するしかないから、時に輸入不足に陥り困ることがある。その打開策として不要になった機器からこうした希少な金属を取り出す技術が発達させた。おかげで、リサイクル資源として有用となり、今では都市鉱山と呼ばれるようになってきている▼この夏のオリンピックピックとパラリンピックで授与された約5000個のメダルは、日本の「都市鉱山」から発掘された金属で作られたそうだ。自治体の呼びかけに応じて全国から寄せられた家電製品などから抽出されたのだという。この経験から、資源立国ではない日本としては、リサイクル技術の発展を図ることの大切さを学んだことだろう▼窮すれば通ず」というが、さて、新型コロナ特効薬も「都市鉱山」メタルのようになんとかできないものだろうか。